

今日のみことば

□ 2月12日(日) 使徒言行録 21章

パウロは第3回の伝道旅行を終えて、エルサレムに帰った。そのユダヤ人たちは、パウロは偽りの教師だと考えて、彼を殺そうとしてた。

□ 2月13日(月) 使徒言行録 22章

パウロはイエス・キリストを信じる信仰を説明しようとした。彼が語ったことは、群衆を怒らせ、兵士たちは彼を捕らえて牢に入れた。

□ 2月14日(火) 使徒言行録 23章

神はパウロに、ローマでみ言葉を語るようになる、と言われました。兵士たちは、暴徒たちがパウロを殺さないように警護をして、彼をカイザリヤに護送した。

□ 2月15日(水) 使徒言行録 24章

パウロは、総督フェリクスの前で弁明をしましたが、フェリクスは2年もの間判決を下そうとはせず、その間パウロは牢につながれていました。

□ 2月16日(木) 使徒言行録 25章

フェリクスの後、フェストゥスが総督になった。フェストゥスがパウロを裁判にかけたとき、パウロはローマ皇帝カイザルに会うことを要求した。

□ 2月17日(金) 使徒言行録 26章

パウロはアグリッパ王に信仰の証しをしました。話を聞いた者たちはパウロの無罪であることを知った。しかしパウロをローマへ送らなければならなかった。

□ 2月18日(土) 使徒言行録 27章

パウロはローマへ向かって出発した。途上でパウロが乗った船が嵐で難破した。すべての人が無事に、ある島の岸に打ち上げられた。

ろ ぼ No. 1802
2017年 2月12日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

エペソ6:17

また、救いを兜としてかぶり、
霊の剣、すなわち神の
言葉をとりなさい。

私たちが平安で毎日を過ごしているとするなら、それは神様の
大いなる憐れみによること私たちは
知っています。パウロは私たちの
日常は、悪魔との戦いである言
いました。この戦いに勝利を収め
るために私たちは神の武具を身に
つけることを勧めます。ここでパ
ウロが「救いを兜として」かぶる
ように勧めます。

「真理の帯」「正義の胸当て」
「福音の靴」「信仰の盾」を身に
着け、そして「救いの兜」をかぶ
るようにと勧めます。

私たちにあって「頭」は、体
中で大変重要な肢体です。フット
ボールの選手はヘルメットをかぶ
ることを要求されます。バイクに
乗るときは、事故で脳を損なうこ
とがないように、ヘルメットをか

ぶることが義務づけられて ます。建設作業員は落下物から身
を守るためにヘルメットをかぶることが要求されています。

それではパウロは、私たちの何を守るために「救いの兜」を
かぶるようにと言っているのでしょうか。「頭」とは私たちの
知性の中心であり、個性の土台であり、私たちの行動の根源と
なるものです。パウロは「救いを兜として」と言いました。私
はこの表現が大変気に入っています。救いは私たちの信仰に大
いに関係があります。イエスの最も大きな戒めの一つは「心を
尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主
を愛しなさい」(マタイ22:37)です。私たちが神の御心をしっかり

受け止めて力をいただくのです。イザヤは「主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。」と言いました。私たちの安全は、しっかりと神を知り、そのみ言葉に従い生きることです。悪霊は創造主である神から、私たちを引き離そうとすることに懸命です。私たちはしっかりとほんとうの自分を確認することが出来なければ、どこまで行っても平安であること難しいです。パウロは「あなた方はこの世に倣ってはいけません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何がよいことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようにしなさい」(コリ12:2)と言うのです。

ダビデは「悪しき者は誇り顔をして、神を求めない。その思いに、すべて『神はない』と言う」(詩篇10:4)と言いましたが神は生きておられる。「事実、あなた方は、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です」(エペソ2:8)と言われるとおりに、神は御子イエスを通して、これを確かなものとして下さいました。クリスマスの主は、十字架の死を通して私たちを罪から贖って下さり復活を通して、永遠のいのちを約束して下さいました。この神からの賜物、救いを兜とする時、「わたしの国籍は天にある」と公言できるのです。

今日、私たちはほんとうに平安な時代を過ごしたいと切望しています。その時私たちがなすべきことは、上を向くことです。私たちは神に生かされる存在であることを、しっかりと確認することです。その時私たちは、真の平安に導かれます。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
コロサイ3:1-11 キリストはすべてのうちに

「あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから上にあるものを求めなさい」と言われる。「わたしにとって、生きることはキリストであり、死ぬことは利益なのです」(ピリピ1:20)と告白する。

しかし「なぜ、まだ世に属しているかのように生き」ているのか。キリストの死を無にしてはいないか、と問われてはいませんか。そこが世の罪から解放されながら、なお苦闘している要因だと言わなければなりません。すべてをキリストに明け渡したことをしっかりと踏まえることがないなら、その苦闘がなくなることはありません。このためにキリストが十字架に付かれたことなのです。「古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです」と言われます。それこそが求めているものなのです。



Read God's Word.

次週の聖書・説教	エペソ 6:10-20	神の言葉を取り
----------	-------------	---------